

北海道開発局事業審議委員会（令和3年度第4回） 審議案件一覧（案）

	事業名	再評価理由	上段：前回再評価	事業の概要	事業期間		全体事業費 (億円)	進捗率 ※1	事業の効果等	費用便益比 全体 B/C	総費用	総便益	地方公共団体等の意見	対応方針 (案)	対応方針(案)決定の理由	備考
			下段：今回再評価		事業化 年度	完了予定 年度										
再～1	渚滑川直轄河川改修事業	再評価後5年	H28再	平成22年5月に渚滑川水系河川整備計画を策定し、戦後最大規模の洪水を安全に流すことを目標に、河道掘削等の整備を進めている。	H22	R10	34	約29%	整備計画における整備メニューの実施により、戦後最大規模の洪水を安全に流すことができる。	14.5	32	461		継続	事業の必要性・重要性に変化なく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。	重点審議 (c) 推定事業費が顕著に増加する事業
			R3	同上	H22	R10	52	約71%	同上	11.9	71	844				
再～2	留萌川直轄河川改修事業	再評価後5年	H28再	平成13年10月に留萌川水系河川整備計画を策定し、戦後最大規模である昭和63年8月の洪水等を安全に流すことを目標に、堤防、掘削、遊水地等の整備を進めている。	H13	R7	209	約76%	整備計画における整備メニューの実施により、戦後最大規模の洪水等を安全に流すことができる。	2.3	246	570		継続	事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されているため	重点審議 (c) 推定事業費が顕著に増加する事業
			R3	同上	H13	R10	273	約74%	同上	2.8	453	1267				
再～3	沙流川直轄河川改修事業	再評価後5年	H28再	平成19年3月に沙流川水系河川整備計画を変更し、戦後最大規模である洪水を安全に流すことを目標に、堤防、河道掘削等の整備を進めている。	H19	R8	156	約58%	整備計画における整備メニューの実施により、戦後最大規模の洪水を安全に流すことができる。	4.4	163	713		継続	事業の必要性・重要性に変化なく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。	重点審議 (c) 推定事業費が顕著に増加する事業
			R3	同上	H19	R8	195	約76%	同上	3.7	273	999				
再～4	後志利別川直轄河川改修事業	再評価後5年	H28再	平成19年6月に後志利別川水系河川整備計画を策定し、戦後最大規模である洪水を安全に流すことを目標に、河道掘削等の整備を進めている。	H19	R8	99	約68%	整備計画における整備メニューの実施により、戦後最大規模の洪水を安全に流すことができる。	3.7	116	434		継続	事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されているため	重点審議 (c) 推定事業費が顕著に増加する事業
			R3	同上	H19	R8	117	約78%	同上	4.0	157	627				

※1 進捗率は、変更後の事業費に対する進捗率を示す

◆重点審議案件の選定要件 (a) 事業計画が顕著に変更された事業
(b) 推定便益が顕著に減少する事業
(c) 推定事業費が顕著に増加する事業
(d) 事業の進捗予定が顕著に遅れている事業
(e) その他の要因